

氏名（本籍）	岡部 保信
学位の種類	博 士（農学）
学位記番号	博 甲 第 7343 号
学位授与年月日	平成 27 年 3 月 25 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
審査研究科	生命環境科学研究科
学位論文題目	大規模森林経営の展開と山林の集積処分過程

主査	筑波大学教授	博士（農学）	志賀和人
副査	筑波大学教授	博士（農学）	加藤衛拡
副査	筑波大学准教授	博士（農学）	興柁克久
副査	筑波大学准教授	博士（農学）	立花 敏

論 文 の 要 旨

本研究では、我が国における大規模私有林の代表的経営類型の 1 つである「商人・高利貸資本」による森林経営の展開、縮小過程を群馬県 A 家の事例から分析した。群馬県 A 家は、幕末から貸金業と太物商を営み、明治 20 年代から農地の集積を開始し、明治 40 年代からは山林の集積も拡大し、昭和 17 年のピーク時の所有山林は 2,879 町歩に達した。大規模森林経営に関する先行研究では、「商人・高利貸資本」による山林の集積と森林経営の展開過程の分析を中心とし、地主経営における金融資産の運用と林業投資の関係を実証的に分析した研究は皆無であった。本研究は、群馬県 A 家の明治期から平成期に至る山林集積と森林経営の展開、山林の処分過程を 1 次資料に基づき分析し、「商人・高利貸資本」による地主経営と森林経営の展開、変質と縮小過程を主要山林の分析を含めて明らかにした。

第 1 章の地主経営の展開と不動産の集積処分では、A 家の明治期以降の入出金と資金循環を検討し、地主経営の展開と田畑、山林集積の関係を明らかにした。幕末から明治初期より居村周辺の住民を相手にした貸金業と太物商の経営を行い、その剰余で明治中期から田畑、山林を集積したが、明治 30 年代には早くも地元銀行・鉄道株、公債が総資産の 80% を超えた。明治末から大正期には、株式配当金と小作金収入を本格的に山林集積と造林、有価証券に投資し、大正中期以降は朝鮮半島へ進出し、株式売却金や朝鮮進出による収入に蓄積基盤の中心が移行した。第 2 次世界大戦後は、農地改革により農地を手放し、立木販売が家計を支えるが、昭和 40 年以降は山林も条件の良い場所を残し処分し、土地経営から金融資産家に完全に变身する。

第 2 章の森林経営の展開過程では、明治期から大正・昭和戦前期、戦後期における立木販売と山林経費の推移、山林の処分過程を分析し、山林集積と森林経営資金の蓄積基盤と変化を明らかにした。明治期には主に薪炭材と竹材を地元農民に販売し、大正・昭和戦前期は主に前所有者が植林した人工林を販売し、明治期末から昭和前期に植林した人工林は、第 2 次世界大戦後から昭和 40 年代に主伐材として販売した。昭和 40 年代以降、燃料革命による薪炭林の価値の低下やスギ、ヒノキの材価低迷により人工林投資の循環が解体し、

山林の大量処分に転じた。

第3章の主要山林の経営展開と処分過程では、A家一族の主要山林8箇所を選定し、造林方法と立木販売、山林の処分過程の特徴を検討した。第2次世界大戦後の農地改革、財産税納付、4回の相続を経験し、所有資産と投資の有利性から山林を売却、寄付、保持に区分し、山林1,900町歩を処分した。処分された山林の多くは薪炭林と戦後の造林地であり、残された山林は条件の良い高齢級の人工林130町歩にとどまり、現在では補助金を活用した最低限の保育を森林組合に委託し、実施している。

以上のA家を事例とした「商人・高利貸資本」類型の森林経営の分析から大規模森林経営の展開と資金循環に関して、以下の点を明らかにした。明治20年代以降、地元銀行・鉄道株を中心とした株式投資を行い、明治期後半には地主資金の蓄積基盤を「商人・高利貸」から金融・証券投資に移行させ、大正期には朝鮮半島の北部の造林事業、南部の水田事業に投資を行い、昭和10年代には国内山林と日本発送電、信越化学等の中央株の投資を拡大した。戦後は人工林の主伐を拡大し、昭和40年以降は、青倉山と軽井沢山をゴルフ場・別荘用地として高額で売却し、優良株の八幡製鉄、王子製紙、トヨタ自工、東京電力等の株式投資を拡大し、安中市内の市街地宅地も取得した。A家の森林経営の展開は、林産物の販売方法や施業体系の高度化による循環経営形成への経営展開はみられず、あくまで投資先としての山林集積、造林投資にとどまり、地主経営の資金循環の変化と金融・証券市場との関係性が森林経営の展開と山林処分過程を大きく規定した。

審 査 の 要 旨

本研究は、明治期から平成期に至る大規模森林経営の山林集積と経営展開及び山林の処分過程を地主経営と資金循環の変化に注目し、第1次資料に基づき実証的に明らかにしている。従来の農林業と商業を中心とした地主経営や森林経営の分析に対して、本研究は地主経営の資金循環の変化と金融・証券市場との関係性に注目し、森林経営の展開と山林の処分過程を実証的に明らかにしており、大規模森林経営研究の新たな展開と山村経済史への貢献が展望できる。

平成27年1月26日、学位論文審査委員会において、審査委員全員出席のもとに論文の審査及び最終試験を行い、本論文について著者に説明を求め、関連事項について質疑応答を行った。その結果、審査委員全員によって合格と判定された。

よって、著者は博士（農学）の学位を受けるのに十分な資格を有するものとして認める。